

# 埋文にいかた

No. 76  
2011. 9. 30

新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 平成23年度発掘調査遺跡の紹介

### 下 割 遺 跡

(上越市米岡字番場780番地ほか)

高田平野のほぼ中央に位置し、遺跡の東方を北流する飯田川沿いの沖積地に立地します。標高は14mを測ります。一般国道253号上越三和道路建設に先立ち、平成14年度から発掘調査が行われています。これまでの調査で古墳時代や奈良時代、室町時代の集落などの様子が明らかになりました。今年度の調査は6回目で、4月から7月まで面積2,800㎡を対象に発掘調査をしました。

調査の結果、平安時代・室町時代・江戸時代の遺構・遺物が見つかりました。平安時代では溝2条と須恵器・土師器が少量出土しています。

室町時代では井戸・用水・道路などを検出しました。道路は昨年度調査から連続するもので、長さ50m、側溝を含めた幅7.5～9m（路面幅4m）の大規模なものです。14世紀～15世紀前半頃の道路と考えています。遺物は能登半島で焼かれた珠洲焼、輸入陶磁器の青磁などが出土しています。遺構・遺物から集落の縁辺部と考えられます。

江戸時代では掘立柱建物・井戸・用水などを検出しました。注目されるのは3条の用水です。明治28年の土地更正図に照らし合わせると西側で検出された用水は明治期、東側の2条は江戸期と考えられます。高田平野では延宝四年（1676）に中江用水が完成していることから、同用水の枝線と考えられます。

調査の最後には現地説明会を開催しました。地元の方々を中心に125名もの参加がありました。（高橋保雄）



江戸時代の用水（南東から）



調査範囲全景（北東から）



室町時代の道路（東から）



7月2日の現地説明会（東から）

# に たん わり 二 反 割 遺 跡

(上越市三和区岡木字二反割 1,013 番地ほか)

高田平野のほぼ中央に位置し、遺跡の西方を北流する飯田川沿いの沖積地に立地します。標高は14mを測ります。一般国道253号上越三和道路建設に伴い、面積2,200㎡を対象に6月から発掘調査をしました。これまでの調査で古墳時代や鎌倉時代の遺跡であることが明らかになりました。

古墳時代では土坑1基、遺物集中地点2か所を検出しました。遺構・遺物の状況から古墳時代中期（5世紀）の集落の縁辺部と考えられます。調査区の南200mには、5世紀後半～5世紀末の群集墳ぐんしゅうふんが見つかった稲原大野遺跡いなはらおのがあり、これに先行する遺跡として注目されます。

鎌倉時代では掘立柱建物ほったてばしらたもの10棟、井戸5基、土坑どこうなどが見つかり、これを幅3m、深さ1.8mの大規模な堀で区画する村の姿が明らかとなりました。掘立柱建物には束柱つかばしらを持ち高床構造の倉庫と考えられる建物も2棟あります。遺物は能登半島で焼かれた珠洲焼が多く出土しました。時期は13世紀前半のもので、短期間の村と考えられます。また、大規模な堀や倉庫から有力者の存在をうかがうことができます。

現在の岡木集落おかぎは17世紀前半に成立した村です。これ以前の歴史は明らかではありませんでしたが、鎌倉時代と古墳時代に集落が営まれていたことが明らかとなりました。

調査の終わりには遺跡や出土品の公開を目的に現地説明会を開きました。地元三和区を中心に85名の方々の参加がありました。



遺跡近景 (南から)



古墳時代の遺物集中地点 (南から)



総柱建物 (倉庫、西から)



堀 (南から)



8月27日の現地説明会 (北から)



# ろく たん だ みなみ 六反田南遺跡

(糸魚川市大字大和川字六反田地内)

六反田南遺跡は海川<sup>うみかわ</sup>右岸の沖積地に立地します。一般国道8号糸魚川東バイパス建設に伴い平成18年度から発掘調査を行なっています。今年度は2調査区(KD3区・市道1区)の調査を4月から実施していますが、今回はKD3区の調査結果を報告します。

KD3区で古墳時代前期(上層)と縄文時代中期(下層)の2面を調査しました。

上層(標高約4.9m)では平地建物<sup>へいちたてもの</sup>2棟のほか、土坑<sup>どこう</sup>や溝などを検出しました。平地建物SI2430は幅の狭い溝が一辺約6mの方形にめぐるとタイプで、建物の西辺にあたる溝の中からは土師器の甕<sup>はじき</sup>や壺<sup>かめ</sup>・器台<sup>つぼ</sup>などが多量に出土しました。もう一つの平地建物SI2428は4基<sup>ちゆうけつ</sup>の柱穴(1基は平成18年度の調査で検出)が約3m四方に並び、その周囲を幅の広い溝が囲っています。4基の柱穴の下部には柱材<sup>はしらざい</sup>が残っていました。建物の周囲をめぐると溝からは多量の土師器の壺や甕が出土しています。

下層(標高約3.2m)では、縄文時代中期前葉～中葉の竪穴建物1棟、土坑5基、溝2状、ピット、土器・石器、動物の骨や植物の種が出土した廃棄域を検出しました。廃棄域は、平成21年度で検出したものの続きと考えられ、調査区の北縁に帯状に広がります。特に遺物が多かった北西隅のくぼ地では、土器が幾重にも折り重なって出土しました。この廃棄域のすぐ南側では、竪穴建物<sup>たてあなたてもの</sup>を検出しました。長軸5m×短軸4mの楕円形住居<sup>しゅちゆうけつ</sup>で、主柱穴は5本、掘り込みは約15cmと浅く、貼り床はしていません。この建物には炉<sup>ろ</sup>がありませんでしたが、これまでの調査でも炉を伴わない竪穴住居状の建物が3棟検出されています。これらは居住<sup>にいきしき</sup>の場<sup>かみやまだ</sup>と言うよりは、作業場<sup>てん</sup>的な役割を果たしたのではないかと考えています。遺物は、土器では北陸の新崎式、上山田・天神山式<sup>じんやましき</sup>を主体に東北<sup>たいぎ</sup>の大木8a式、中部高地や関東の土器、石器では打製石斧<sup>だせいせきふ</sup>・蛇紋岩製の磨製石斧<sup>ませいせきふ</sup>やこれらの未成品<sup>たたますりいしるい</sup>、敲磨石類<sup>いしざらるい</sup>、石皿類<sup>かいがらじょうはくへん</sup>、貝殻状剥片を素材としたスクレイパー、ヒスイ・黒曜石製の剥片等が出土しています。

(榎吉田建設 野水晃子・山本友紀)



上層 平地建物SI2428 (上空北から)



上層 平地建物SI2428の柱材



下層 遺跡全景 (東から)



下層 廃棄域 (北西のくぼ地、南東から)

## 平成23年度整理作業遺跡の紹介

## 大武遺跡

(長岡市島崎字大武)

大武遺跡は、新潟県の中央部海岸寄り、島崎川左岸の丘陵裾付近に位置します。国道116号和島バイパスの建設に伴い、平成6年から平成9年にかけて発掘調査を実施しました。調査の結果、縄文時代以前に形成された谷の中から、縄文時代前期から室町時代の土器・石器・木器が層位的に出土し、古墳時代前期から鎌倉時代の水田跡・井戸・土坑などが検出されました。縄文時代前期・弥生時代中期・古墳時代前期の遺物が特に多く出土しており、縄文時代後期・晩期の遺物にも注目すべきものがあります。

平成23年度から24年度に本格的な整理作業を行う予定で、平成23年度は木器の実測・製図、石器の分類や実測を実施します。以下では、これまでの調査や整理で見つかった注目の遺物を年代順に紹介します。

1は、幅約3.5cm、菱の実形の小型土製品で、縄文時代前期のもので、X線で透過すると中は空洞で、楕円形の球が6個みえます(2)。耳のそばで左右に振ると「カサカサ」と小さな音が聞こえることから、「鈴」と考えました。音が小さいのは、縄文時代が現在よりも雑音が少なく静かだったからでしょうか。

3は4本の低い脚をもつ縄文時代後期の木製品です。全長約64cmと大型です。左右非対称で左側は鉤状に屈曲します。「木製脚付盤」と呼んでいます。縄文時代後期の木製品は、他に『埋文にいがた』19号(1997年6月発行)で紹介した組み合わせ式斧柄があります。

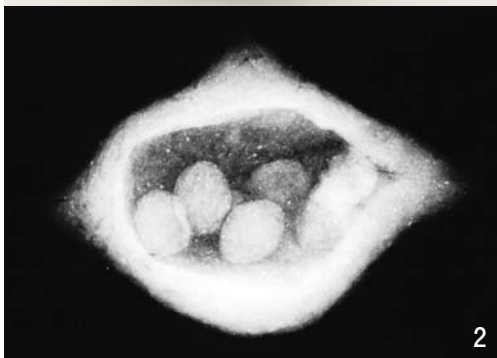
4は縄文時代晩期の木製の腕輪です。文様が彫刻され、赤色の漆が塗られています。半分以上を欠損しますが、内径約6cm前後と推定できます。身に着けていたのは子供でしょうか。

5は弥生時代中期のヒスイ製勾玉と未成品、ヒスイ原石です。このほか、緑色凝灰岩を用いた管玉や管玉の未成品、砥石、管玉や勾玉に穴をあけるための弾み車や石針も出土しています。弥生時代中期の新潟県はヒスイや緑色凝灰岩を使用した玉作りが盛んですが、大武遺跡でも盛んに玉作りを行っていたようです。

整理では、層位的な知見をもとに縄文時代から室町時代にかけての道具や暮らしの変化を明らかにできるよう、努めていきます。(春日真実)



1



2

土鈴(1)と土鈴のX線写真(2)



3

木製脚付盤



4

腕輪



5

ヒスイ製勾玉未成品・ヒスイ原石

## 埋文コラム

## 縄文時代中期の土偶

土偶は縄文時代を通じて作られ続けた、精神文化を示す遺物の一つです。女性を強く意識した像であることが多く、その姿から誕生・豊穰・再生などの崇拝対象（祭祀・呪術）として、または装飾品や玩具としての用途などが考えられてきました。また、当時の服装や髪形などを推測できることもあります。

縄文時代中期になると東日本、特に北陸や中部高地を中心に土偶は盛んに作られ、地域的な特色が現れ始めてきます。作り方にも変化が表れ、体部は立体的になり、脚部を表現し、立たせることが可能なものも作られ始めます。簡略化されたものではありませんが、顔の表情が豊かになるのもこの頃からです。

県内においても、土偶が増えるのは中期以降で、晩期まで合わせると千点以上出土しています。その過半数を中期の土偶が占めており、中越地方を中心に多く見つかっています。頭頂部が平らまたは皿状のものが多く、「河童形土偶」とも呼ばれます。腹部は膨らみ、それをさらに強調するような弧線文が両脇に施されます。頭や腕などに貫通した穴を持つものは、ヒモを通して、柱・壁などに掛けたことが想像できます。掛けることで、立たせるのと同じ効果、例えば複数の人間が同時に見ることが可能になったと思われます。一方で、その形状や文様構成などから、人体を抽象化したものと考えられる三角形土版（土偶）も同時期に出土します。携帯しやすい小型品が多く、通常の土偶と共に、その分布や用途の違いが注目されます。

土偶の使用方法は一通りではなく、形が変化していくように、目的も多様化していったと考えられます。祭祀に関わる行為は、現代でも特定の地域のみで行われている場合があり、土偶はそのような小地域圏を考える手助けになるものと思われます。表情や形からその目的を読み取ることは難しいことですが、土偶と対面し、それぞれの感じ方でときに思いを寄せてみるのも楽しいのではないのでしょうか。（石川智紀）



北野遺跡の土偶



菽野遺跡の土偶

新潟県立歴史博物館秋季企画展

## 「新潟の土偶—発掘された新潟の歴史2011—」

2011年9月23日(金・祝)～11月20日(日)

財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団の平成22年度を中心とした発掘調査成果とともに、新潟県内の縄文時代中期の個性豊かな土偶を特集して紹介しています。財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団が新潟県各地で行った発掘調査の出土遺物や写真パネルなどの最新成果のほか、三条市吉野屋遺跡をはじめとして土偶がたくさん出土している遺跡の土偶を幅広く集めて展示しています。本誌で紹介した六反田南遺跡の土器、大武遺跡の土鈴、北野遺跡・菽野遺跡の土偶も展示しています。

会期中には、発掘調査報告会のほか講演会等が催されます。

## 観覧料

	個人	団体
一般	700円	560円
大学・高校生	500円	400円
中学生以下	無料	

※団体は20名以上。

※常設展も観覧できます。

【お問い合わせ】 新潟県立歴史博物館

電話：0258-47-6130



## 県内の遺跡・遺物74

しもばたたまさく  
下畑玉作遺跡 (昭和48年3月県指定)

(所在地：佐渡市畑野)

下畑玉作遺跡は、<sup>くになか</sup>国中平野のほぼ中央にあり、小佐渡山地から流れる国府川の支流小倉川右岸の標高約4mの沖積地(自然堤防)に位置します。国中平野には多くの玉作遺跡がありますが、本遺跡の発見は昭和14年と古く、新穂玉作遺跡などと共に佐渡玉作遺跡と総称します。

昭和46・47年のほ場整備に伴う緊急調査で、<sup>どこうぼ</sup>土坑墓が5基検出されました。形状は長さ約4mの細長いものと約2mの小判型のものがあります。細長いものうち、1号墓は長さ4.85m、幅0.5～0.6mの規模で、両壁には腐食木片が付着しており、規模から割竹形木棺墓の可能性<sup>わりだけがたもつかんぼ</sup>があります。割竹形木棺は古墳時代に盛行するので、弥生時代の遺跡にみられるということは、古墳時代の墓制との

関係を考える上でも貴重な事例です。1号墓からは壺や甕など4個の土器が出土しました。土坑墓中央の粘土上にあつた人頭大の<sup>れき</sup>礫1個は、<sup>ぼひょうせき</sup>墓標石の可能性<sup>くだたま</sup>があります。このほか土坑墓内から、人骨片・歯のほか、管玉未成品・砥石、大量の炭化米が出土しました。2号墓は長さ3.9m、幅0.9～1.3mで人骨はありませんでしたが、木棺の一部とみられる炭化材がありました。

土器は弥生時代中期の北陸系のものが多数を占めます。北陸系土器は櫛歯状工具で羽状文・格子文・波状文・並行線文などを描くのが特徴です。これに磨消縄文にヘラ状工具で沈線渦巻文を描く東北南部の土器が若干伴います。異なる地方の影響を受けた土器が共に出土することから、遺跡の成立に関わった人の動きを推し量ることができます。

石器には石鏃・磨製石斧・環状石器があります。玉作関係の遺物には、<sup>へきぎよくりよくしよくぎょうかいがん</sup>碧玉(緑色凝灰岩)製の勾玉・<sup>まがたま</sup>赤玉(鉄石英)や碧玉製の細形管玉未成品、玉作の工具である柱状砥石・台石・石鋸・石針があります。管玉製作に関わる一連の未成品や工具が揃っていることから、本遺跡では玉作が行われていたと考えられます。

本遺跡は弥生時代の玉作とその社会的背景を理解する上で重要な遺跡であることから、昭和48年3月に新潟県指定史跡になりました。

参考資料：『新潟県史 資料編1 原始・古代』[新潟県1983]、『下畑玉作遺跡第一次緊急調査概要』[畑野町教育委員会1972]、『下畑玉作遺跡第二次緊急調査概要』[畑野町教育委員会1973]

資料提供：佐渡市



1～5号土坑墓



赤玉製管玉の工程品



碧玉製管玉の工程品

## 埋文にいがたNo.76

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1  
TEL (0250)25-3981  
FAX (0250)25-3986  
E-mail: niigata@maibun.net  
URL: http://www.maibun.net  
印刷 株式会社ハイグラフィック